

山岳科学総合研究所 友の会公報

2012年11月 第7号



上高地が最後に輝くひと時「カラマツ黄葉と霞沢岳」

もくじ

第5回現地研修会 報告	2
会員リレーコラム	2
・松橋友子 「第5回現地研修会」	
・西村智磨子 「原山講座後のおまけ ひょうたん池山行」	
おしらせ	4
編集後記	4

第5回現地研修会 報告

当初予定していませんでした現地研修会を「キノコを学び紅葉を愛でる」ということで、10月13日に開催しましたのでその概要を報告します。

今回の現地研修会は、里山の自然を感じ、学ぶことを目的に、松本市奈川高ソメキャンプ場で開催し、14名の会員が参加しました。

10時、三々五々会場に集合し、まずはあらゆるキノコを採取することから始めました。

今年は夏から記録的な少雨ということで、山も乾燥気味。そんなに採れないのではないかと踏んでいましたが、みなさん結構目端が利くらしく、お昼前にはたくさんのキノコが採れました。

さっそく保健所をお願いした「キノコ衛生指導員」の方に鑑定をしていただき、まずは食菌と毒菌を区分。食べられるキノコではハナイグチが一番たくさん採れ、ほかにムラサキシメジ、クリタケ、チャナメツムタケなどが採れました。毒キノコではベニテングダケやニガクリタケ、ツルタケなどがありました。

鑑定していただいたキノコはそれぞれ持ちかえり、用意しておいたキノコ鍋でお昼をいただきました。

シラカバに囲まれ、秋の弱い日差しを浴びながら静かで豊かなひと時を過ごしました。

昼食後は野麦峠の麓にある「清水牧場チーズ工房」に行ってきましたが、残念ながらお目当てのチーズは品切れで手に入れることができませんでした。

キノコは種類が多く、キノコ衛生指導員も同定できないものも多く、毒菌もたくさんあります。毎年キノコ中毒が報告されており、ひとつ間違えると死に至る場合もあります。

野生のキノコは知らないものは食べないことが肝要です。それにつけても秋の山は今年最後の化粧をして冬を迎える準備をします。その彩りと、落ち葉が醸す香りは私たちに豊かな時間を与えてくれます。

山は山岳もよし、里山もよし、さまざまなフィールドをそれぞれの思いで楽しみましょう。



リレーコラム



第5回現地研修会

10月13日の「キノコを学び紅葉を愛でる」参加の皆様、集合時間に大幅に遅れて申し訳ありませんでした。ご縁があって入会させていただいて、魅力的なご案内が送られて来て、参加してみたいけれど、遠かったり、私にはレベル高過ぎ？と参加させていただいた事はありませんで



した。今回は行きたくて、同級生の山仲間と参加させていただきました。

集合時間の 1 時間以上前にキャンプ場へ着いて、ちょっと歩いてみよう！と、びくだけ持って山に入りました。ハナイグチや黄土色のジコボウがたくさん採れました。

あまり遠くへは行かず、駐車場の近くでと思っていたのに、集合まで 30 分だから戻りましょうと上に登って行ったら、駐車場が目に入りません。少し上に行ったり、下ったりしましたが、見つかりません。すぐに戻るつもりで出たので、連絡先を書いた紙もケイタイも持っていません。さあ困った！こうなったら下ろうと・・・

結構急な坂を必死で下りました。下っても下っても、あまり景色は変わらず、これは困った事になったと・・・黙々と下っていたら道路が見えて来ました。沢を渡って、道路までやっとの事で登りました。そこからが遠かった。カーブミラーが見える度にキャンプ場かと思いましたが、その度に裏切られる事 4 回程。集合時間よりかなり遅れて到着。

11 時半まできのこ採りと言われて、今度は怖くてあまり動けませんでした。時々下っては、駐車場が見えるか戻ってみる。そんな事を繰り返して、2 回目のきのこ採りは集合時間より早く戻りました。

マンガに出て来るようなかわいいきのこ、ベニテングダケ、持って行ってもいいですよと言われて、1 本いただいて帰りました。ハナイグチも立派なものをたくさん採られた方が、あげるよと・・・本当に怖い思いもしましたが、忘れられない 1 日になりました。ありがとうございました。

松橋友子



原山講座後のおまけ ひょうたん池山行

9 月 8 日、上高地を舞台として山岳研友の会員対象の原山講座が持たれた。今春の湊沢談話会参加の折、9 月上旬に開かれると耳にした興味のある講座であった。

大正池湖畔から始まった原山先生のお話は、日常的な時空を飛び越えてのダイナミックな地球の話「上高地の地形の成り立ちについて」で、明神までの 4 時間 30 分にわたって繰り広げられた。原山先生の話は、何度お聞きしても楽しい。未知の世界の想像を超える地球のうねりに心打たれ、心ときめかす時間を体感できる。

原山講座の後、ひょうたん池にご案内くださるといふ小林さんに伴われて、男女 6 名で出かけてきた。往復 5 時間、講座後のおまけの歩きとはいえ、なかなかのコース。ひょうたん池は、長年登り上げてみたいと思い続けてきた場所、登ってみたい！！そんな思いを抱いてから 20 年の月日が過ぎていた場所でもある。

研修所脇の明神池に流れ込む小さな川を渡り、下宮川谷の沢筋の針葉樹林帯の中の急登が続く、明神、1500m から 2290m ひょうたん池まで、標高差 800m の登り上げである。下宮川の沢の河床を渡り、やがて明神岳から崩れ落ちてくる岩塊斜面に取りつく、ペンキの印と赤布に誘導されて進む。ちょっとした草つきには、トリカブト、ノコンギク、トラノオの仲間など、小さな花たちが彩りを添えて目を楽しませてくれる。先導の小林さんは、惑いなく岩塊の中を先行される。少し離れてしまうと、どこに足を置くのかを迷うほど、急な登り上げと、岩塊斜面のトラバースが続く、やがて、草つきに入り岩の顔が変わった。足元に水の流れだしを意識して間もなく、何の変哲もない小さなちいさな水溜りに到着する。アメンボウが数匹水の上を滑り、水底には黒いものがのそのそと、クロヤモリであろうということであった。そうして、数メートル



ル先 2330mの高みに登り上げ、振り向くと、何の変哲もない水たまりが周囲の緑に切り取られ、ヒョウタンの形を見せているではないか！ちゃんと嘴の部分の尖りも付いている。驚きであった。まさしくひょうたんの形をした池！！明神東稜稜線の直下、斜面の小さな窪みに一定の水を蓄え、長い年月存在し続けることの不思議に思いを馳せた。ここは、かつて存在した槍・穂高カルデラのカルデラ壁と、奥又白花崗岩との境界線に当たる処、との説明を昨日原山先生から受けたばかり、カルデラ壁が競り上がる、という造山運動の過程の中で、こんな所に窪みとして水を透さない層もたらされ、池を造り出したのかと自己流に解釈し帰途に就いた。

下りてきて後の女性陣の感想は、お勧めコースではないわよネ！ということであった。それだけ疲労が大きかったということになるだろうか。思いもかけない形でのひょうたん池との出会いに、何か貴重な拾いものをしたような気分を味わい帰郷した。

西村智磨子

お・し・ら・せ

◎会員集会・第3回憧憬の森講演会・会員交流会

同封いたしましたご案内の通り、12月16日（日）に本年最後の友の会事業を開催します。

全体集会と講演会の終了後に場所を移して、会員交流会（忘年会）を行います。予約の都合がございますのでご参加いただける方は、12月5日（水）までに、ご連絡ください。

◎リレーコラムと表紙写真を随時募集しています

日ごろ思うことや、山への思い、友の会への要望や提言などなんでも結構です。隔月で発行を予定しています会報へ「コラム」をお寄せください。

また、表紙を飾る写真も募集します。当面、来春1月の8号「新年号」、3月発行予定の9号の写真を募集しております。基本は風景で、季節感のある自慢の1枚をお寄せいただけたらと思います。データまたは写真をお送りください。なお、写真の場合はこちらでスキャンいたしますので、画質が劣りますことをご了承ください。よろしくお願いいたします。応募が多数の場合は、ご期待に添えない場合がございますので、何とぞご了承願います。

編集後記

この時期、季節の移ろいの速さをしみじみ感じます。上高地ではカラマツの黄葉の最盛期が10月20日頃からほぼ1週間、そして、その1週間後には雪は積もり、県道の路面は黄色くなって、景色はモノトーンへと変わっていきます。

会報も今回で7号目となりました。紙面の充実をと思っておりますが、なかなかうまくはいきません。活動の記録と会員の情報交換の場として、これからも皆さまのご協力をお願いいたします。
(友の会会報編集委員会)

山岳科学総合研究所友の会会報 第7号

発行日：2012年11月12日

発行：山岳科学総合研究所友の会

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

信州大学山岳科学総合研究所友の会事務局

TEL：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

E-mail：ims-support@shinshu-u.ac.jp